

## 着物レンタルサービスの現状と大学生の利用実態に関する研究

扇澤美千子 茨城キリスト教大学生生活科学部  
加藤聡恵 元埼玉大学教育学部  
川端博子 埼玉大学教育学部

キーワード: 着物レンタルサービス、利用実態、着物のイメージ、質問紙調査

### 1. はじめに

現代の日本人は、着物を日常的に着ることはほとんどなく、通過儀礼(七五三、成人式、卒業式、結婚式等)や、花火大会や祭りにおいて着物または浴衣を着る姿を見かける程度である。儀式や趣味嗜好における着用が多いことから、今後も市場の急激な拡大は難しいとみられている<sup>1</sup>。経済産業省の「消費者に対するきものアンケート」<sup>2</sup>によると、着物を着用するのに至らない理由として、「費用が掛かりそう」「着る機会がない」「着るのが大変」という意見があげられ、着物を着たいが面倒であるやルールがよくわからないなどを理由に着物を着ない若者は多い。

一方で、成人式における振袖レンタルサービスや卒業式の袴レンタルサービスは従来から利用されており、近年では振袖を着用する際、54.6%の人がレンタルサービスを利用しており、レンタル着物市場は拡大傾向にある<sup>3</sup>。また、着物を気軽に手軽に着られる、新たな着物レンタルサービスが登場し、観光地において、外国人を含む観光客を対象としたレンタルショップが増加している。自分で着る手間がないこと、メンテナンスの必要がないこと、そして価格の安さ、利用の気軽さが支持につながっている。また、着物姿が「インスタ映え」することを受け、若い女性がレンタルショップを利用し、写真撮影、SNSに投稿するなども人気を後押ししている。

さらに、宿泊施設(旅館や温泉宿、ホテル等)において着用される温泉浴衣も、最近では自分の好きな柄や色の温泉浴衣を選べるサービスが増えてきている。2015年の孫の研究<sup>4</sup>においては、地方の温泉地に備えてある館内着を選んで楽しめる浴衣に見直すことで、和の情緒的な雰囲気を演出することができ、非日常の癒しを味わうことができると述べられている。

これまでの研究<sup>2,5</sup>では、若者の着物の所有率の低さ、着用頻度の減少といった、着物離れについて述べられているが、観光地や宿泊施設での利用実態やこうした利用を支える着物レンタルサービスの利用に関する研究は少ない現状である。

そこで、本研究では、着物レンタルサービスの現状及びその内容について調査し、さらに、大学生を対象に、観光地、宿泊施設、花火大会や祭り、成人式における「着物の着用実態」「着物レンタルサービスについての意識」の質問紙調査を行うことで、若者の着用実態と着用理由、着物レンタルサービスの利用実態を明らかにするとともに着物レンタルサービスの問題点を検討し、今後の着物レンタルサービスの普及と着物の伝承との関係について考察することを目的とする。

### 2. 研究方法

#### 2-1 着物レンタルサービスの現状調査

観光地、花火大会や祭り、成人式におけるレンタル店のサービス内容についてインターネットサイトを用いて情報収集し、着物レンタルサービスの利用の主な流れや、セット・プラン内容、価格を調査した。宿泊施設においては、宿泊予約サイトを閲覧し、プラン内容を調べた。

## 2-2 質問紙調査

大学生を対象に、「着物の着用実態」「着物レンタルサービスについての意識」を調査し、現代の若者の着物の着用実態を明らかにした。

調査対象：18～24歳の大学生の女性339名、男性182名、計521名

調査時期・方法：2018年7月から2018年10月に、調査紙(関東地区にある4大学)とインターネット(Google Forms)を用いて回答を依頼した。回答総数は女性339名、男性182名、総計521名(18歳47名、19歳162名、20歳156名、21歳97名、22歳47名、23歳11名、24歳1名)で調査紙での回答は女性が229名(44.0%)、男性136名(26.1%)の計365名である。

調査内容：観光地、宿泊施設、花火大会や祭り、成人式の4場面における①着物の着用実態(着用経験の有無、着用した着物の種類)と今後の着用意思、さらに、着物の多くはレンタルによって賄われている実態を踏まえ、②着物レンタルサービスの利用割合、③着用理由、④着物レンタルサービスの今後の利用意思と利用上限価格、⑤着物レンタルサービスに対するイメージ(自由記述)を調査した。さらにパーティ・結婚式(出席者として)、結婚式(新郎新婦として)の場面における着物レンタルサービスの利用実態と利用意志についても調査した。

## 2-3 分析方法

解析にはIBM社による統計ソフトIBM SPSS Statistics Version25を用いた。

## 3. 結果・考察

### 3-1 着物レンタルサービスの現状

近年登場している着物レンタルサービスは、インターネットなどで予約でき、着物や小物を持って行くことなく、着付けてもらい、現地で返却ができる等、利便性が高い。ここでは、観光地、宿泊施設、花火大会や祭り、成人式の4つの場面における着物レンタルサービスについて、それぞれの店や施設のWEBサイトを閲覧し、利用の主な流れやセットに含まれるもの、プラン内容、価格を調べ、レンタルサービスの現状を表1にまとめた。

観光地に関しては利用者が多い京都、金沢、浅草における着物レンタルサービス25店舗の結果である。価格は、着物の種類や質、デザイン、サービス、オプションによって異なるが、女性は2,000～4,000円(25店平均3,669円)、男性は3,000～5,000円(23店平均4,024円)が相場であった。手頃な価格で簡単に着物をレンタルすることが可能であり、気軽に着物を着たいと思う若者に受け入れられている。

宿泊施設については国内旅行宿泊予約サイト「るるぶトラベル」<https://rurubu.travel/>でも「かわいい浴衣が着られる」と宣伝する宿泊施設が多くみられ、「色浴衣が着られるプラン」特集が表示された211施設のうち15施設の結果である。温泉浴衣レンタルの価格は宿泊プラン料金に含まれるため抽出することはできなかった。

表1 レンタルサービスの現状

場面	観光地	宿泊施設	花火大会・祭り	成人式
WEBサイトの数 アクセス日時	25店舗 2018年12月19日	15施設 2019年1月11日	5店舗 2019年1月12日	10店舗 2019年1月12日
セット	着物、帯、肌着、長襦袢、バッグ、足袋、草履	浴衣、帯等	浴衣、帯、巾着、下駄、肌着	振袖、袋帯、長襦袢、半衿、重ね衿、帯締め、帯揚げ、草履、バッグ、その他小物8点、足袋
オプション・プラン	ヘアセット 小物レンタル カップル料金 グループ割引 時間割引	好みの色柄を選ぶ 外歩き・観光	通常よりも遅い時間の返却や翌日返却 カップル料金	レンタル期間(最長1か月、最短2日) 着付け、ヘアセット
価格帯(推定平均)	女性 2,000～4,000円 (3,669円)、男性 3,000～5,000円 (4,024円)	宿泊料金に含まれるため、価格は不明	女性2,000～4,000円 (3,748円)	30,000～150,000円 (振袖成人式価格) (92,667円)

花火大会・祭りに関しては隅田川花火大会の浴衣レンタル特別プランについてWEBサイト5店舗の結果である。上記の花火大会限定特別プラン2,000～4,000円(浴衣)では、通常よりも遅い時間(22時まで)での返却や翌日返却(12時まで)が可能となっており、花火大会に合わせた利用時間で用意されている。5店舗の女性一人の平均価格は3,748円で、カップル料金(2人分)を設定している店もある。

振袖についてはbing.comにおいて「成人式 振袖 レンタル」で検索し、上位に出てきた着物レンタルサイト10店舗の結果である。レンタル期間は店やプランによって異なるが、最長1か月(成人式より1か月前にレンタル)、最短2日(成人式当日にレンタル、翌日返却)であった。振袖によって価格の幅は大きく異なり(振袖成人式価格30,000～150,000円)、着物のレンタルに着付けも含む店では、価格も高めであった。店舗の人気ランキング1位やお勧めプランの価格を平均すると92,667円であった。

### 3-2 質問紙調査の結果

#### (1) 着物の着用実態

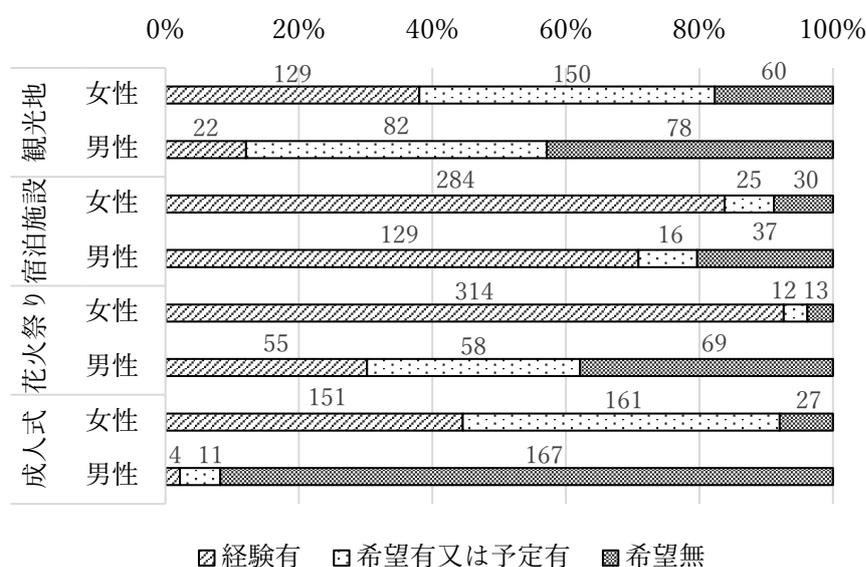
図1は調査対象者の4場面での着物着用経験と今後の着用希望の有無をまとめた結果である。「観光地(街歩きなど)において着物(浴衣も含む)を着用したことがありますか。」の問いに、着用経験が「ある」と回答した人は151人(29.0%)、「ない」と答えた人は370人(71.0%)であった。男女別で見ると、着用経験が「ある」と回答した人の85.4%が女性だった。さらに、着用経験が「ない」と答えた人に、「今後観光地で着物を着用したいと思いますか。」と尋ねた結果、232人(62.7%)が着物を着用したいと考えており、着用経験のある人を含めると383人(73.5%)となり、

観光地で着物を着用する人の割合は今後も高まると考えられる。着用した場所は、「京都」が79人(52.3%)と半数を超え、ついで「金沢」14人(9.3%)、「浅草」13人(8.6%)、「川越」13人(8.6%)、「鎌倉」12人(7.9%)の順で、全国の人気の観光地で着られていることが分かる。着用した着物は「浴衣」と答えた人が84人(55.6%)、「浴衣以外の着物」と答えた人が67人(44.4%)であった。

宿泊施設において着物(浴衣)の着用経験が「ある」と答えた人は413人(79.3%)で、約8割にのぼり、女性の方が着物の着用経験がある人の割合が高かった。宿泊施設での着物の「着用経験あり」または「今後着用したい」と答えた人は454人(87.1%)で、男性145人(80%)は4場面で最も多かった。宿泊施設での着用はより気軽な機会ととらえていることがうかがえた。

花火大会や祭りにおける着物(浴衣)の着用経験については、「ある」と答えた人は369人(70.8%)、男女別に見ると、女性は314人(92.6%)、男性は55人(30.2%)で、着用経験のある人の割合には男女差が大きい。着用経験が「ない」と答えた152人の46.1%が今後着用したいと「思う」と答えており、全体では84.3%が花火大会や祭りでの着物の「着用経験あり」または「今後着用したい」となり、花火大会や祭りにおける浴衣の着用は若い世代に浸透してきていることが分かる。

成人式で着物の着用経験が「ある」と答えた人は155人(29.8%)、「今後着用する予定がある」と答えた人は172人(33.0%)であった。男女別に見ると、女性は着用経験が「ある」(44.8%)または「今後着用する予定である」(47.8%)を合わせると92.6%に上った。男性は91.7%の人が着用経験は「ない」と回答した。女性の学年別に見ると、学部1年は62人のうち93.5%が「今後着用する予定がある」、学部2年は119人のうち16人(13.4%)が成人式での着用経験が「ある」、103人(86.6%)が「今後着用する予定がある」と答えており、成人式での女性の着物着用率は男



性に比べ非常に高いといえる。成人式は、長年通過儀礼として受け継がれてきた行事の一つであり、「お祝いする日」として晴れ着を着用する伝統が残っていることが女性の着用者・希望者が多い理由となっている。

図1 着用経験と着用希望の有無

## (2) 着物着用の理由について

着物を着用したことがある、今後着用したいと思うと答えた対象者(以降、着用者・希望者と略する)に、着用しようと思った理由を14項目あげて、あてはまるものすべてを選択する方式(複数回答)で尋ねた。図2は場面別に着用しようと思った理由を選択した人数を示した。

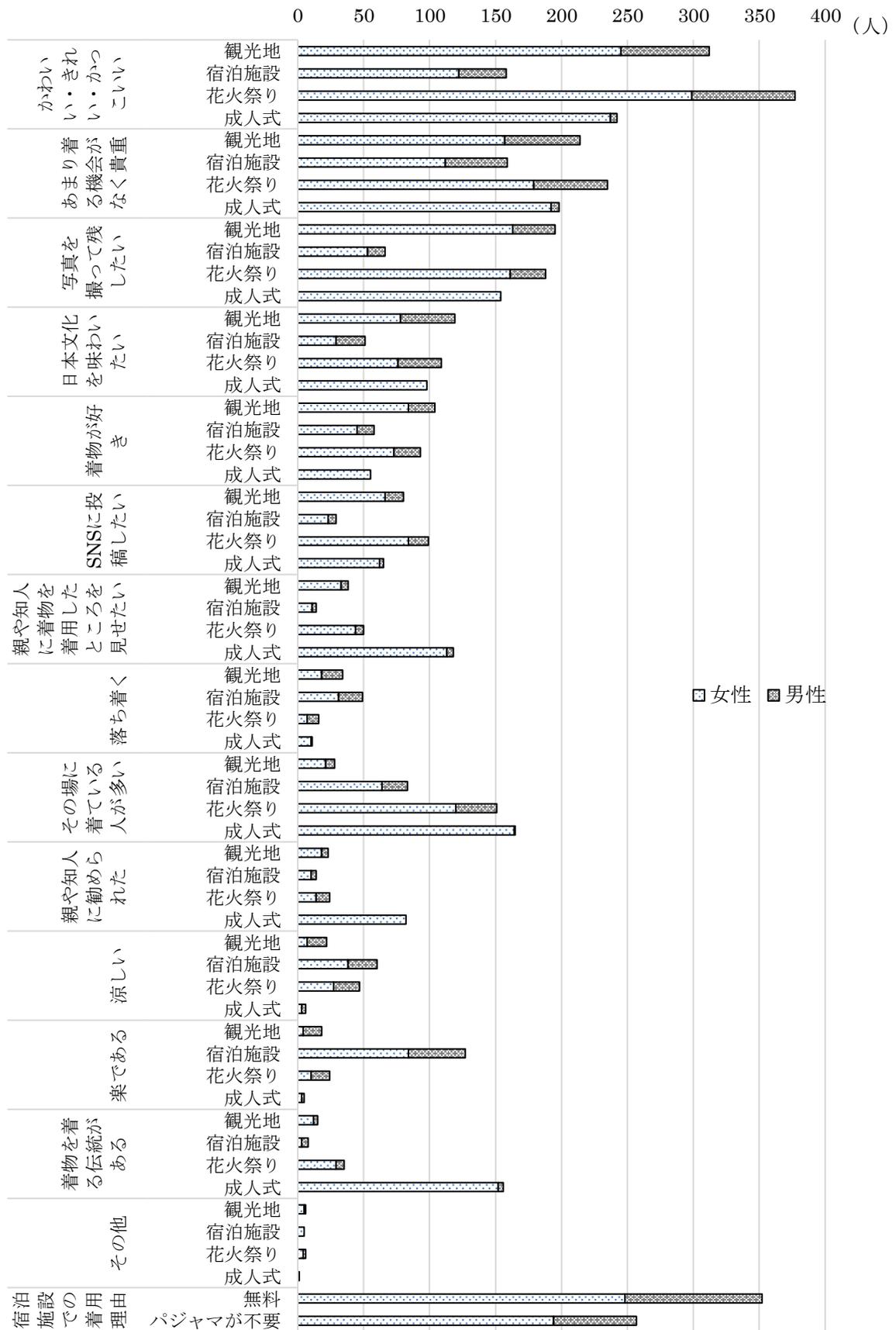


図2 着用しようと思った理由（着用者・希望者、複数回答）

観光地における着用者・希望者(383人)の場合、最も多かったのは「かわいい・きれい・かっこいい」312人(81.5%)、ついで「あまり着る機会がなく貴重」214人(55.9%)、「写真を撮って残したい」195人(50.9%)であった。これらの上位3項目は回答者の50%以上が選択しており、観光地において着物を着たいと思う人の主な理由として考えられる。「その他」には少数ながら「思い出になる」「旅行に来た特別感がある」などの意見があった。

宿泊施設における着用者・希望者(454人)の場合、「無料で提供される」「パジャマを持って行かなくていい」の2項目を加えた16項目について、着用しようと思った理由を選択する方式(複数回答)で尋ねた。最も多かったのは「無料で提供される」352人(77.5%)で、次いで「パジャマを持って行かなくていい」257人(56.6%)であった。3番目に多かったのは「あまり着る機会がなく貴重」159人(35.0%)であった。4番目に多かったのが「楽である」127人(28.0%)であり、「涼しい」60人(13.2%)も比較的多いことから、宿泊施設での着用は、経済性、利便性と機能が重視されていた。その他には「旅行気分が高まる」「(宿泊施設の)雰囲気合っている」などがあった。

花火大会や祭りにおける着用者・希望者(439人)の場合、最も多かったのは、「かわいい・きれい・かっこいい」377人(85.9%)で、ついで「あまり着る機会がなく貴重」235人(53.5%)、「写真を撮って残したい」188人(42.8%)であった。「その場に着ている人が多い」を選択している人も151人(34.4%)と多く、その他には「雰囲気を楽しみたい」「祭り気分になれる」「一緒に行っている人と揃えたい」などがあった。花火大会や祭りにおいて着物を着用している人が増え、周囲との一体感を味わっていることも分かった。

成人式における着用者・希望者(327人)の場合、最も多かったのは「かわいい・きれい・かっこいい」で242人(74.0%)、ついで「あまり着る機会がなく貴重」で196人(59.9%)、次に多かったのは「その場に着ている人が多い」167人(51.1%)であった。「着物を着る伝統がある」155人(47.4%)や「親や知人に着物を着用したところを見せたい」115人(35.2%)も多く、成人式での着用では、伝統を意識し親や知人に見せたいという気持ちが他の場面よりも多く示された。

4場面で共通して多く選択されている項目は「かわいい・きれい・かっこいい」「あまり着る機会がなく貴重」「写真を撮って残したい」であった。観光地、花火大会や祭りにおいては、「SNSに投稿したい」といった着物を着た姿をアピールする傾向があり、着物の着用は普段の生活にはない貴重な体験であると捉えていることがうかがえる。男女別で比較すると、女性は「かわいい・きれい」を、男性は「かっこいい」を理由に挙げる割合が高かった。宿泊施設においては「楽である」「涼しい」といった機能を重視する項目が選択されており、男性にその傾向が強かった。

### (3) 着物着用時の印象

図3は、観光地において着用経験が「ある」と答えた151人(男性22人、女性129人)に、着用した際の印象について良かった点は自由記述、悪かった点は11項目あげてあてはまるものを選択する方式(複数回答)で尋ねた結果について示している。良い印象については、記載の多くみられた内容をもとに、観点要素5項目「価格」「サービス」「利便性」「感情」「着装」で分類した結果である。最も多い項目は「感情」に関する意見67件で、「非日常感があった」10件、「特別感があった」9件、「思い出に残る」5件、「気分が上がった」5件などがあった。次に多いのは「着装」に関する意見63件で、「写真、SNS映えする」14件、「街並み、雰囲気に合っている」14件、「かわいい」11件などの意見が多くみられ、これらは前述の着用しようと思った理由として多くの回答が得られた項目と一致していた。

3番目に多いのは「サービス」に関する意見 57 件で、「着付けをしてもらえる」17 件、「ヘアセットをしてもらえる」10 件、「気に入った着物を自分で選べた」7 件などがあった。「利便性」に関する意見は 13 件で(「手ぶらでいける」5 件等)、「価格」に関する意見は 7 件(「安い」4 件等)であった。これらの回答は着物レンタルのサービスに対して好感を抱く内容といえる。

悪い印象については「動きにくい・歩きづらい」が 66 件(43.7%)と最も多く、ついで、「返却時間に縛られてしまう」45 件(29.8%)、「気温に左右される」43 件(28.5%)、「天気によって左右される」37 件(29.8%)となった。「その他」には「汚さないように気を遣う」や、「着付けが難しい」などの意見が記載されていた。一方で、現地で当日の申し込み・Web での予約が可能のため、「予約が面倒」は 6 件(4.0%)と少なかった。悪い印象の件数が多いのは、回答形式が選択式・複数回答であったことにも関わると考える。

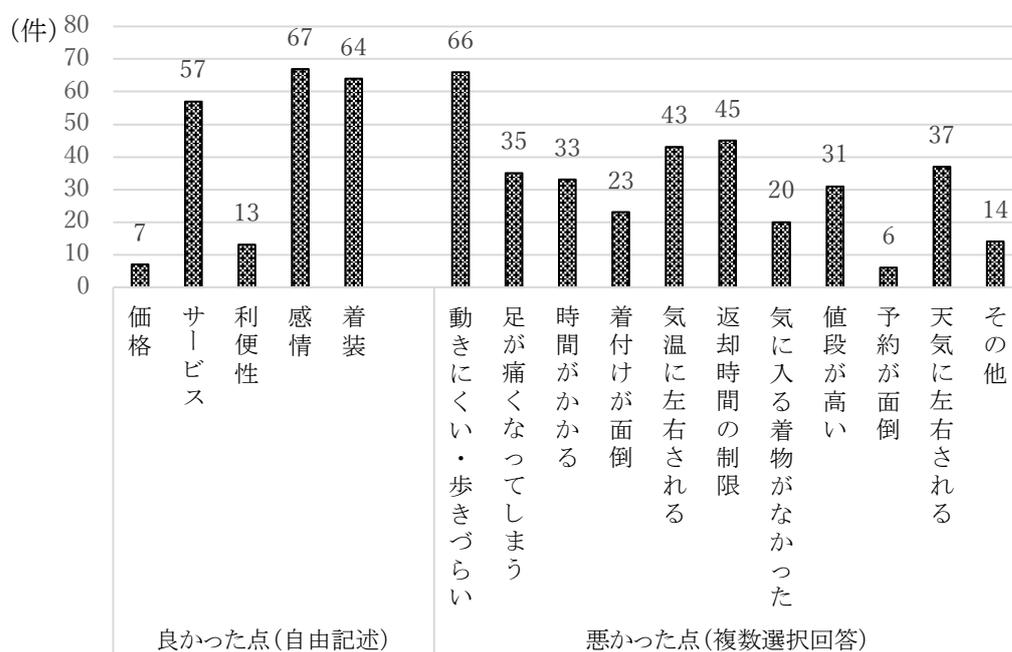


図3 着用時の印象：良かった点、悪かった点

#### (4) 着物レンタルサービスの利用割合

図4は観光地・花火大会や祭り・成人式における着物着用時の入手方法についてまとめた結果である。観光地での着物着用経験者 151 人に「着用した着物はどのように入手しましたか。」(レンタル・購入・その他の3択)を尋ねたところ、着物の入手方法は「レンタル」が 124 人(81.6%)、「購入」が 20 人(13.2%)、「その他」7 人(4.6%)と8割の人がレンタルを利用しているという結果になった。その他には「祖母または母の手作り」や「知人からの譲渡」の回答がみられた。

一方、花火大会や祭りでのゆかたの着用経験有の場合、「レンタル」は 8 人(2.2%)、「購入」が 315 人(85.4%)で、8割以上の方が購入・所有していることが分かった。近年、ゆかたは手ごろな値段で品ぞろえも豊富になり、ショッピングセンターやネットショッピング等でも購入が可能になっていることなどが、購入者が多い要因になっていると思われる。その他 40 人(10.8%)には「親や知人からの譲渡」「手作り」という回答があった。

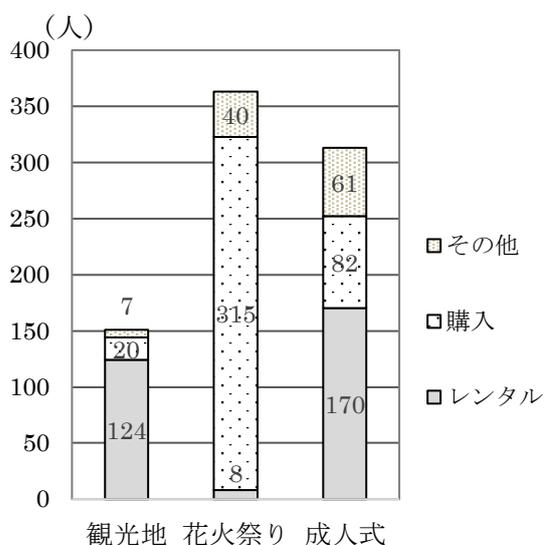


図4 着物着用時の入手方法

成人式において着用経験有 155 人と「今後着用する予定である」172 人の計 327 人の場合、「レンタル」は 170 人(54.3%)、「購入」は 82 人(26.2%)となった。「その他」は 61 人(19.5%)、未回答 14 人(4%)で「その他」には家族や知人からの譲渡という回答が多かった。成人式の着物は高額であり、着用機会も限られるため、ゆかたに比べ「レンタル」の割合は高いが、着用しようと思った理由として挙がっていた伝統や日本文化を重んじる意識もあり、購入や譲渡も少なくなかった。

#### (5) 着物レンタルサービスの今後の利用意志と上限価格について

全員に対して「今後、以下の場面で着物レンタルサービスを利用したいと思いますか。」と問い、(1)観光地、(2)宿泊施設、(3)花火大会や祭り、(4)成人式・卒業式、(5)パーティ・結婚式(出席者として)、(6)結婚式(新郎新婦として)の 6 場面を提示し「利用したい」・「利用したいと思わない」の 2 択で尋ねた結果を図 5 に示した。図 6 は、(1)(2)(3)について「利用したい」場合、利用時の最高価格を選択式で尋ねた結果である。男女の比較では、カイ 2 乗検定の結果、 $p < 0.01$  の有意差がみられ、すべての場面で女性の利用希望が多かった。

観光地において着物レンタルサービス(着付け代を含む)を「利用したい」と答えた人は 389 人(74.7%)、で、男女別に見ると、女性は 339 人のうち 286 人(84.4%)、男性は 182 人のうち 103 人(56.6%)が「利用したい」と答えた。今回の調査結果で着用経験者が約 3 割だったことを考えると、今後の利用増加が見込まれる。利用時の価格帯は「～5,000」円で 170 人(43.7%)、ついで「～3,000」円で 95 人(24.4%)、「～7,000」円で 39 人(10.0%)、「～2,000」円で 38 人(9.8%)であった。

宿泊施設において着物レンタルサービス(着付け代を含まない)を「利用したい」と答えた人は 395 人(75.8%)、「利用したいと思わない」と答えた人は 102 人(19.6%)であった。男女別で見ると、女性は 339 人のうち 280 人(82.6%)、男性は 182 人のうち 115 人(63.2%)が「利用したい」と答えた。利用時の価格帯は「0」円で 236 人(59.7%)、ついで「～500」円で 68 人(17.2%)であった。利用したいと思う人の約 6 割の人が無料であれば利用したいと考えていることが明らかになった。

花火大会や祭りにおいて着物レンタルサービス(着付け代を含まない)を「利用したい」と答えた人は 342 人(65.6%)で、男女別に見ると、女性は 339 人のうち 236 人(69.6%)で、男性は 182 人のうち 106 人(58.2%)が「利用したい」と答えた。利用時の価格帯は「～3,000」円で 115 人(33.6%)、ついで「～2,000」円で 64 人(18.7%)、「～5,000」円は 59 人(17.3%)であった。

観光地、花火大会やお祭りでも着物レンタルの利用希望者は多く、特に、男性の利用者が増える可能性は大きいといえよう。費用に関しては、宿泊施設では無料でのレンタル希望が多かったが、観光地、花火大会やお祭りのレンタルサービス利用価格帯は表1で示した価格設定に近いことが分かった。

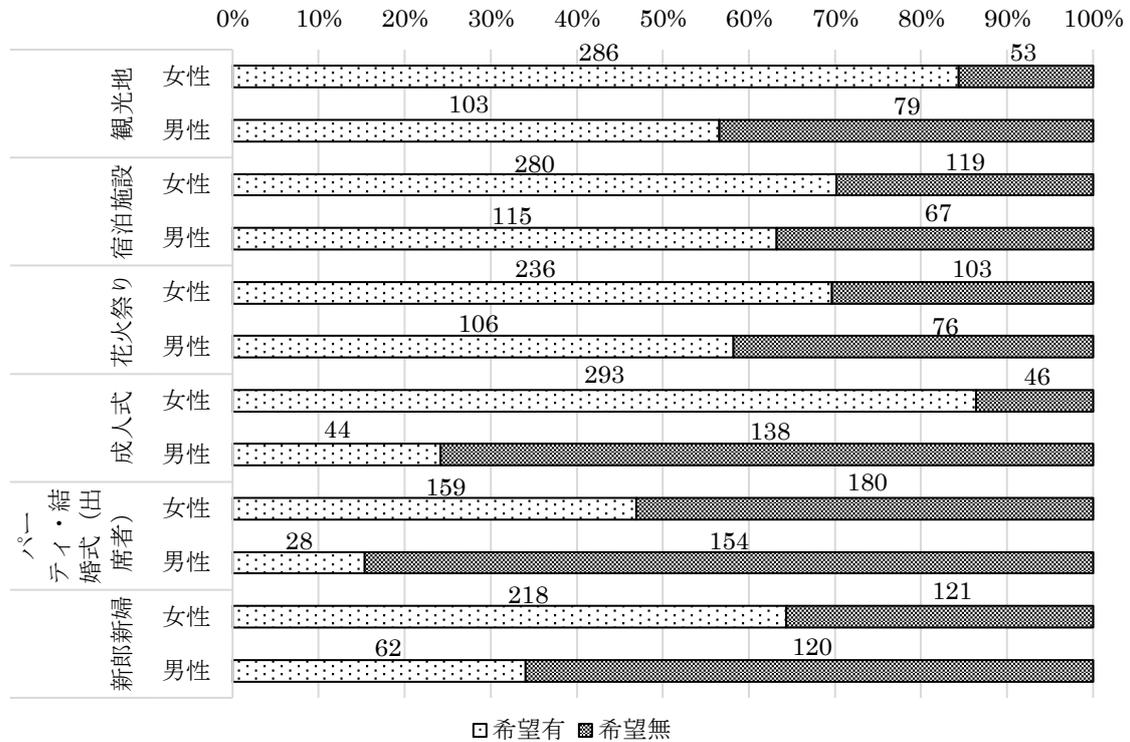


図5 着物レンタルサービスの利用意志に関する回答

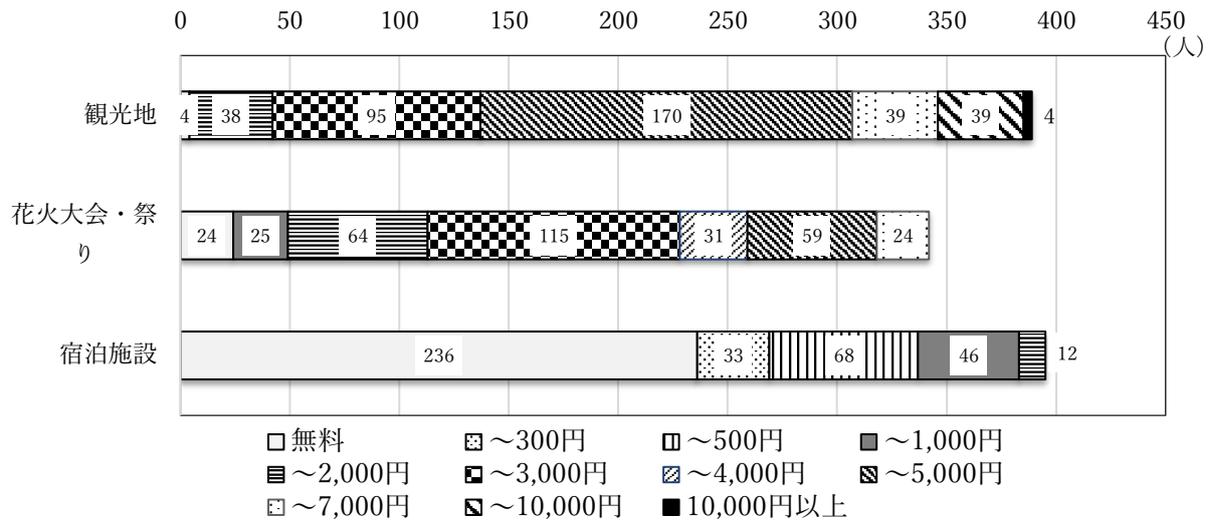


図6 着物レンタルサービス利用時の利用価格帯(円)

成人式・卒業式において着物レンタルサービスを「利用したい」と答えた人は 337 人(64.7%)で、男女別に見ると、「利用したい」と答えた人は女性 339 人のうち 293 人(86.4%)で、男性は 182 人のうち 44 人(24.2%)であった。男女で割合の差が大きく見られた。

パーティ・結婚式において出席者として着物レンタルサービスを「利用したい」と答えた人は 187 人(35.9%)、「利用したいと思わない」と答えた人は 311 人(59.7%)であった。男女別で見ると、女性は 339 人のうち 159 人(46.9%)で、男性は 182 人のうち 28 人(15.4%)であった。

結婚式において新郎新婦として着物レンタルサービスを「利用したい」と答えた人は 280 人(53.7%)、「利用したいと思わない」と答えた人は 217 人(41.7%)であった。男女別で見ると、女性は 339 人のうち 218 人(64.3%)、男性は 182 人のうち 62 人(34.0%)で、男女差が大きくみられた。

このように、観光地や宿泊施設、花火大会や祭りにおいても、着物レンタルサービスを利用したいと考える人は多く、特に女性は、観光地 77.3%、宿泊施設 74.9%、花火大会や祭り 66.7%、成人式・卒業式 86.4%、結婚式の出席者として 46.9%、新郎新婦として 64.3%となり、これらの数値からも、今後のレンタル利用が増えることが予想され、振袖などのレンタルも手ごろな値段になれば、パーティードレスに代わり、多様な場面で着用する人が増えていく可能性が示唆された。

#### (6) 着物レンタルサービスに対するイメージ

図 7 は全員を対象に観光地、宿泊施設、花火大会や祭りにおける着物レンタルサービスのイメージを良い点と悪い点それぞれ自由記述式で尋ね記述内容を観点要素 5 項目「価格」「サービス」「利便性」「感情」「着装」で分類した結果である。

##### 1) 良いイメージ

最も多かった項目は「サービス」に関する意見 165 件で、「着付けをしてもらえる」「種類が豊富にそろっている」「毎回違う着物が着られる」などの意見があった。次に多かったのは「利便性」に関する意見 152 件で、「手ぶらで何も持って行かなくてよい」「着物を家で保管しなくてよい」「楽」などの意見が多くみられた。3 番目に多かったのは「着装」に関する意見 117 件で、「伝統的・日本文化的」「かわいい」「SNS・写真映えする」「雰囲気合う」などがあっ

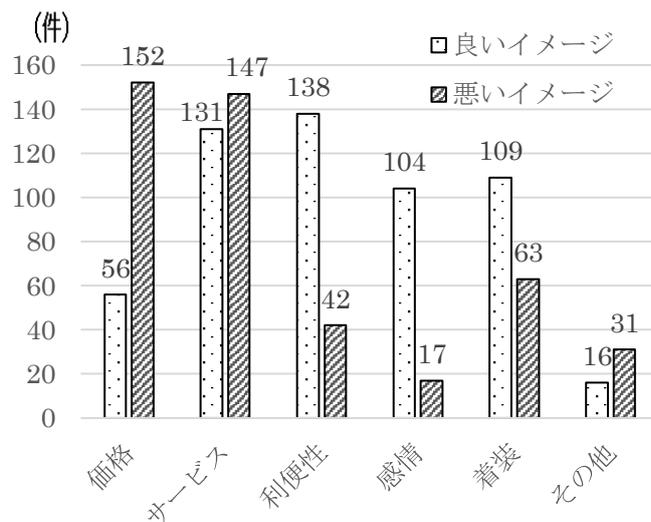


図 7 着物レンタルサービスに関するイメージ比較

た。4 番目に多かったのは「感情」に関する意見 115 件で、「雰囲気を楽しむ・味わう」「気分が上がる」「思い出に残る」などがあつた。「価格」に関する意見は 56 件で他の項目に比べ、半数以下と最も少なかった。具体的には、「安い」「着物を購入するより安い」などの意見があつた。その他では、「外国人でも利用しやすい」という意見があつた。

観光地での着物の着用経験がある人とない人での記述件数を比較すると、「サービス」の項目に関して、

着用経験がある人が 33.1%、着用経験がない人が 21.9%となり、着用経験がある人の方が記述した割合が 10%以上高かった。

## 2)悪いイメージ

最も多かった項目は「サービス」に関する意見 169 件で、「汚してしまわないか気を遣う」「時間に縛られる」「清潔か不安」「気に入る着物がないかもしれない」などの意見があった。次に多かったのは「価格」に関する意見 152 件で、「高い」「高そう」などの意見が多くみられた。3 番目に多かったのは「着装」に関する意見 82 件で、「歩きづらい、動きづらい」「暑い」「苦しい」などがあった。4 番目に多かったのは「利便性」に関する意見 44 件で、予約や返却などが「面倒くさい」とあった。「感情」に関する意見は 17 件で最も少なく、「そこまでして着ようと思わない」「恥ずかしい」などの意見があった。その他では、「混雑している」「流行りにのせられている」という意見もあった。

### 3-3 今後の着物レンタルサービスと着物の伝承

着物レンタルサービスに対するイメージ調査を行った結果、着物レンタルサービスを手軽で便利だと認識する人が多く、着装については伝統的な着物を着ることで、かわいく、かっこよく写真映えする自分になれると感じ、感情についても着物を着ることで感情が高ぶる方向にはたらくという意見が多く、着物を着ることに對して前向きな意見が見られた。

しかし、価格とサービスについては、「高い」「時間に縛られる」「汚してしまわないか気を遣う」「清潔か不安」等のマイナスイメージが多く上がっていた。価格は、店やプランによって異なり、小物や履物などのオプション料金が発生すると、価格が膨らむ場合があるため、分かりやすい料金表示が求められる。その他、翌日返却や着物のレンタル保障、クリーニングの充実などが必要であり、サービスに関しては、まだまだ改善の余地があることも明らかとなった。

今回の結果からも、従来からの成人式だけでなく、観光地や宿泊施設、花火大会や祭りにおいて着物レンタルサービスが若者に受け入れられ始めているということが明らかとなった。着物の着付けの仕方や保管・手入れの方法がわからない、面倒であると考える若者にとって、着物レンタルサービスは不便と不安を解消し、気軽に、簡単に着物を着る手立てとなっている。また、その都度気に入った着物を楽しめるのも受け入れられる要因となっている。今後、利用の拡大による価格の低下やサービスの向上によって、着物レンタルサービスの需要は高まり、利用機会は増えていくと考えられる。

着物レンタルサービスは、着物の良さを認識し着装の意志があっても行動に移せない要因のうち、所有と着付け技能を外部化したことが受け入れにつながった理由である。また、成人式や結婚式といった通過儀礼に限定せず、年中行事や観光での利用にターゲットを当てたことももう一つの理由といえる。このような着物レンタルサービスが、今後どの程度まで利用する世代層を拡大させ、日常生活のレベルへ普及・浸透していくかの予測はできないが、これまで受け継がれた染織文化は従来どおりに残しつつ、一方で、手入れのしやすい素材、着付けの簡便な着物や帯などへ改良が進むことで、それとは異なる新たな着物文化の伝承の形が作られていくのではないかと考える。

## 4 まとめ

本研究では、着物レンタルサービスについて、観光地、宿泊施設、花火大会や祭り、成人式のシーン別に整理し、着物の着用実態を調査するとともに、今後着物が受け入れられていく上での課題について考察した。

質問紙調査の分析では、どの場面においても着用経験が「ある」と「今後着用する予定がある」の回答が多く、女子は8割～9割を占めていた。着物レンタルサービスに関しては、観光地においては74.7%、宿泊施設75.8%、花火大会や祭り65.6%、成人式・卒業式64.7%、結婚式の出席者としては35.9%、新郎新婦としては53.7%が、今後着物レンタルサービスを利用したいと回答した。これらの結果からもこれまでとは異なる調達方法で着物の着用が若い世代に浸透してきていることを示す結果となり、着物レンタルサービスの利用が増えていくことが示唆された。

着物レンタルサービスに対するイメージ調査からは、保管・手入れの必要もなく、着付けもしてもらえるため、利便性が高いと感じていることがわかった。一方、サービスについては、翌日返却や着物のレンタル保障の導入、利用者の衛生面の不安をなくす工夫が求められていた。

今後、価格の引き下げやサービスの向上を推進することで、着物レンタルサービスの需要は高まり、利用されるシーンは増えていくと考えられる。着物レンタルサービスの充実と普及は、若者の着物離れを解消し着物を着る機会を増やし、着物文化への興味・関心を喚起することにつながり、新たなかたちでの着物の伝承の一助となりうる。

#### 引用文献

- 1) 「織物、装い新たに」 朝日新聞朝刊 週刊九州 2008年1月13日発行 30ページ
- 2) 消費者に対するきものアンケート【20代以上の男女に対するきもの着用に関する消費者調査】  
平成27年5月19日（平成26年実施） 経済産業省繊維課  
[http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/wasou\\_shinkou/pdf/004\\_03\\_00.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/wasou_shinkou/pdf/004_03_00.pdf)
- 3) 「成人式の振りそでレンタル急成長 呉服店でも拡大」 朝日新聞朝刊 三重 2002年1月11日発行 27ページ
- 4) 浴衣の着装体験が温泉地域の活性化やファッションセラピーに及ぼす影響 人間発達科学部 紀要 第10巻第1号：145-159（2015）孫珠熙
- 5) モノと社会の関わり—京都市東山区における着物に関する意識調査— 佛教大学社会学部論集 第62号（2016年3月） 林隆紀

（2020年3月31日提出）  
（2020年4月10日受理）

# Understanding the Current Status of Kimono Rental Services and the Usage amongst University Students

**OUGIZAWA, Michiko**

College of Life Science, Ibaraki Christian University

**KATO, Sae**

Formerly from Faculty of Education, Saitama University

**KAWABATA, Hiroko**

Faculty of Education, Saitama University

## Abstract

The study investigated the kimono rental services and the actual usage of kimonos according to scenes such as at sightseeing spots, accommodation facilities, firework festivals and the coming-of-age ceremony. In addition, we considered the issues that must be solved when kimonos are adopted more in future daily life.

According to the analysis of the questionnaire survey, many, especially 80% to 90% of girls, were found to respond that they had "worn in the past" or "plan to wear in the future" in all scenes. As to the kimono rental services, more than 70% of respondents showed a future desire to use the service at sightseeing spots and at accommodation facilities. These results indicate that the use of kimono has sank into the younger generation with a newer method to obtain, and suggest that the usage will increase.

Survey on image of the kimono rental service revealed that the respondents felt a strong convenience in being able to get dressed without the need for storage or care. On the other hand, the service needs to contrive ways to tackle with issues such as the short next-day return system, the need to introduce kimono rental security, and means to solve users' hygiene concerns.

By reducing prices and improving services, it is expected that the demand for kimono rental services will increase in the future together with an increase in the number of scenes used. Enhancement and popularization of kimono rental services will help young people familiarize with kimonos, increase their chances to wear kimonos, and enhance their interest towards kimono culture, which in turn will help pass on kimonos to the future in a new form.

**Keywords** : kimono rental service, usage, image of kimono, questionnaire survey